星空の夜

ランデブー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空の夜

【Ｎコード】

Ｎ８３００Ａ

【作者名】

ランデブー

【あらすじ】

星空の夜に思いを伝える物語です。

♂
星空の夜、
僕は貴方に告白する。

星空の夜、　　僕は貴方の一等星になる。

星空の夜、
僕は貴方の心を奪う。

星空の夜、　　僕は貴方の大切な人に。

「でも、自信ないんだよな……。告白するなんて初めてだし、どんな言葉を出したら良いのか分からないし」
「お前何馬鹿な事言ってんだよ？　　星空の夜に、輝く町のダイヤモンド、人気が無い展望台……これで告白失敗したら凄いよ！」
「そうだな、終わりだな。こんなに良いムードなのに断わられたら、ショックで立ち直れないかもな……」
「マイナスに考えるな！　後向きに考えるより、何事も前向きに考えろ！　　百戦錬磨の俺が言うんだから正しいんだ、覚えとけ！」
「百戦錬磨って……告白を断わられる事？」
「ウルセー！　　恋愛の達人である俺様のアドバイスを、ちゃんと聞きやがれ！」
「彼女いない歴＝年齢の奴にアドバイスされても、参考になるのなぁ。で……アドバイスって何？」
「彼女の目をちゃんと見てやれ！」

♀

星空の夜、
彼が何かの話をする。

星空の夜、
恋の名所の展望台で。

星空の夜、
私はどうすればいいの？

星空の夜、
彼にちゃんと伝えなきゃ。

「展望台で話って、１００％告白よね。マジどうしよう？　私、彼を傷付けるかも」
「だから言ったじゃない！　二股はイケないって」
「悪いのは私なの。親が勝手に決めた結婚相手を、ふらなかったんだから……」
「今からでも結婚相手ふったら？　じゃないと、彼がカワイソウだよ」

「でも……結婚式の日程とか決めちゃったし。もう手遅れだよ……」
「そんなの後で考えればいいでしょ？　今は、彼の事だけを考えればいいの！　彼の事が好きなんでしょ？　後悔してもいいの？」
「……そうだね、ちゃんと全てを伝えなきゃ。彼に内緒にしてた事、全部伝えなきゃね」
「頑張れ～。彼となら、幸せになれるよ！　私は応援してるからね！」

♂♀
星空の夜、
空には満天の星達が。

星空の夜、　冷たい風が肌を撫でる。

星空の夜、
静かな時間が流れていく。

星空の夜、
ドキドキが止まらない。

「ごめんね。忙しいのに急にこんな所に呼び出して」
「忙しくなんてないよ。気を使わないでね」
「うん、ありがとう」
「……」

ビュー

ビュービュー

風の音しか聞こえなく、二人は黙ってしまった。

♂
「…」
なんて声をかけたらいいんだ？　僕が彼女を呼んだんだから、僕が声をかけるべきなのか？

♀
「…」
彼はととも優しいから、私の秘密を知っても怒らないと思うけど、彼が傷付かないか心配だなぁ～。

男は、
彼女にとても優しい。
女は、　　彼にとても優しい。
そんな二人は、実は諸恋いである。しかし、お互い好きだって事を、中々話せない。それは、二人の性格が原因なのかもしれない。

♂
「……」
もし、彼女が先に話そうと思っていたらどうする？　　僕が先に話したら、彼女は悲しむに違いない。
だから、彼女の言葉を待とう。

♀
「……」
知ってたんだ、二股してた事。だって、とても真剣な顔付きだし……。
私のせいで、心に深い傷を負わないかなぁ？

ビュー

ビュービュー

風の音しか聞こえなく、二人が黙ってから３０分経過。

「……」
「……」

そんな二人の様子を、静かに見守る人物がいた。

「何やってんのよ！　さっさと告白して、夜の街に消えなさいよ！」

「アイツ、何で俯いてんだ。俺が言ったアドバイス、忘れたのか？」

茂みには女と男がいた。

「アンタさぁ～。彼に変な事言ってないでしょうね？」
「変な事は言ってないけど、アドバイスは言ったよ」
「……アドバイス？」
「彼女の目をちゃんと見てやれ！　って」
「それ、ヤバいな……。私は、目をそらせ！　って言っちゃったよ」

女と男は、固唾をのむ。

街の方からサイレンの音が聞こえた時ーー

彼は彼女の目を見つめ、彼女は彼の目をそらす。

何だか、気まずい雰囲気が生まれてしまった。

♂
「……！」
彼女が、目をそらすって事は……貴方とは今日でお別れって事か？

♀
「……！」
一瞬目が合ったけど、彼は私の行動をどう思うんだろう？

茂みの二人は、
「彼女の視界に入らなきゃ！　目をそられても、諦めちゃイケないよ！」
「さっさとキスして、幸せになっちまえ！」
応援していた。

ビュー

ビュービュー

風の音が徐々に弱まった時、二人は決めたーー

二人同時に話すと。

日にちが変わるのと同時に、思いを伝えると。

☆

静寂が、二人を包み込む。

二人は腕時計を見た。現在の時刻はＰＭ１１：５９……

あと一分だ。

ドキドキは速度を上げる。

秒針は一定のスピードで、天辺を目指す。

カチッ……カチッ……

もうすぐ、天辺だ。

2　3　4　5

カチッ……カチッ……

『好きです』

二人は同じ言葉を選んだ。

「えっーー」

「私も、驚いてるよ」

「僕なんかで、本当にいいの？」

「当たり前でしょ？　貴方以外の男性なんて、興味無いしね～」

「ありがとう……」
「うん」

男は、優しく微笑むと、女を抱き締めた。
女は、男と目が合うと、照れていた。
男は、可愛いなぁ～と、彼女に言う。
女は、そりゃそうよと、彼に言う。

そして二人は、

愛し合った。

（後書き）

読んでくれてありがとうございました！　恋愛小説というモノを、初めて書きました。　未熟なトコロがあったとは思いますが、スミマセン。よければ、御感想をいただけませんか？皆さんがどう思ったのか知りたいです！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8300a/

星空の夜

2010年12月5日15時33分発行